

ニホンナシ‘豊水’のみつ症発生要因の解明 みつ症発生に及ぼす樹勢要因の影響

佐久間文雄*・片桐澄雄・折本善之・多比良和生・
梅谷 隆・鈴木陽子**・檜山博也**・石塚由之**

キーワード：ニホンナシ、ホウズイ、ミツショウ、サイバヨウイン、ドジョウ、ジュセイ

Factors Which Induce Watercore in Japanese Pear (*Pyrus Pyrifolia* Nakai cv Hosui) Effect of Tree Vigor on the Occurrence of Watercore

Fumio SAKUMA, Sumio KATAGIRI, Yoshiyuki ORIMOTO, Kazuo TAHIRA,
Takashi UMEYA, Yoko SUZUKI, Hironari HIYAMA and Yoshiyuki ISHIZUKA

Summary

Factor analysis based on tree vigor and soil condition in 103 orchards was carried out in order to study the occurrence of watercore in Japanese pear cv. Hosui.

1. The occurrence of watercore was closely correlated with soil conditions.
2. Incidence of watercore was lower in alluvial soil orchards, which were water logged for long periods, and in moisture-rich Kuroboku soil orchards.
3. A significant positive correlation was observed between cropping fruit load and watercore. Watercore was greater in small and overripening fruits, but abnormally large fruits also induced the occurrence of watercore.
4. The occurrence of watercore was correlated with number of leaves/m², length of current shoot and number of reserved branches.

I. 緒 言

ニホンナシ‘豊水’は1970年代に、主に‘長十郎’への高接更新によって、全国的に普及した。特に本県は、全国に先がけ全国有数の‘豊水’の一大産地となった。1991年現在‘豊水’は、茨城県ナシ結果樹面積1660haのうち34.7%，576haを占め、幸水56.0%，929haとともに赤ナシの主要二大品種となっている(1)。

しかし、1973年頃からリンゴのみつ症と類似した果

肉障害が発生するようになり、Kajiuraら(2)によってニホンナシの‘みつ症状’と仮称された。‘豊水’のみつ症は過去1978, 1980, 1982, 1988年そして1993年に関東地方を中心で多発した。

1980, 1982, 1988年の多発年には、現地実態調査が実施され、その結果が報告されている(3, 4, 5, 7, 10, 11)。これらの報告の中で、土壤条件や樹勢とみつ症発生との関係について、明らかにされた点もあるが多くは解明されていない。

* 現在茨城県農業総合センター生物工学研究所

** 退職

Table 3. (Continued)

No	17 Shimotsuma	18 Shimotsuma	19 Shimotsuma	20 Chiyoda
Soil type ^Z	HA	FGL	FGL	HA
Tree age(years old)	12	16	17	15
Top-grafting,	Chojuro			Chojuro
interstock(years old)	40	Nursery Stock	Nursery Stock	
No. of current shoots ^Z	9.2	15.0	10.3	9.1
Ave. length of current shoot(cm)	70.5	66.6	76.6	74.6
Rate of current shoot(%)				
below 50cm	30.1	38.1	29.2	22.2
51-100cm	48.6	43.8	42.1	59.5
above 101cm	21.3	18.1	28.8	18.3
Rate of lateral branch(%)				
1 year old	3.4	11.9	0	0
2 years	13.8	22.0	26.1	23.1
3 years	17.2	35.6	30.4	23.1
4 years	31.0	13.6	32.6	23.1
5 years	13.8	10.2	10.9	23.1
above 6 years	20.7	6.8	0	7.6
No. of reserved branches ^{Z,0.6}	0.5	0.7	0.6	
Length of reserved branch(cm)	34.5	35.3	39.3	30.2
No. of leaves ^Z	466	456	491	308
Leaf area index	2.50	2.96	2.73	1.89
Cropping fruit load ^Z	12.1	10.0	10.2	6.6
No. of leaves per a fruit	38.7	45.6	48.2	46.6
Fruit weight(g) ^{Y(X)}	422	407(424)	477(501)	317
Specific gravity ^W	-	1.010	1.017	1.017
Ground color	3.1	3.9(3.8)	3.4(3.4)	4.1
Flesh firmness	3.1	3.0(3.2)	3.7(3.6)	2.6
Ave. watercore index	0.43	0.27(0.47)	0.27(0.09)	0.51
Heavy watercore rate%	13.3	6.7(6.7)	0(0)	14.1

Z: Number per a trellis area 1m² Y: 145days after full bloom X,W: 152days after full bloom

V: HA;Humic Andosols THA;Thick Humic Andosols MCGL;Medium and Coarse-textured Gray Lowland soils

LA;Light-colored Andosols FGL;Fine-textured Gray Lowland soils

日調査で樹冠面積 1m²当たり側枝本数と正、果そう葉乾物重と負、樹冠面積 1m²当たり葉枚数と正、葉面積指数

Table 4. Correlation between tree vigor factors and watercore in 1989.

Tree vigor factors	145days after full bloom		152days after full bloom	
	Ave. watercore	Heavy watercore	Ave. watercore	Heavy watercore
No. of current shoots ^z	.039	.029	.093	.036
Amount of				
current shoot growth ^z	.098	.073	.105	.059
Ave. length of				
current shoot	.145	.099	.030	.047
Rate of current shoot				
below 50cm	-.033	.010	.032	.022
51-100cm	-.300	-.303	-.264	-.255
above 101cm	.265	.217	.162	.174
Rate of lateral branch				
1 year old	-.227	-.191	-.094	-.122
2 years	.077	.047	.144	.178
3 years	.292	.217	.165	.156
4 years	-.128	-.159	-.242	-.238
5 years	-.040	-.001	-.186	-.175
above 6 years	-.002	.057	.102	.101
No. of lateral branches ^z	.335	.355	.288	.250
No. of reserved branches ^z	.464*	.450*	.324	.303
Length of reserved				
branch	.157	.193	.176	.164
No. of leaves ^z	.324	.308	.352	.297
Leaf area index	.332	.316	.360	.299
Cropping fruit load ^z	.405	.467*	.400	.411
No. of leaves per a fruit	-.085	-.170	-.115	-.176

Z: Number per a trellis area 1m²

樹勢要因とみつ症発生に有意な相関が認められたのは、満開後152日調査で平均新梢長と正、101cm以上の新梢発生割合と正、満開後145日調査で果実重と正、この3つの要因であった。他に有意ではないが、樹冠面積

1m²当たり予備枝本数と正、樹冠面積1m²当たり葉枚数と正、着果数と負、葉果比と正、硬度と負の傾向がみられた(Table 6)。

Table 6. Correlation between tree vigor factors and watercore in 1990.

Tree vigor factors	145days after full bloom		152days after full bloom	
	Ave. watercore	Heavy watercore	Ave. watercore	Heavy watercore
No. of current shoots ^z	.196	.275	.150	.059
Amount of current shoot growth ^z	.362	.438	.346	.265
Ave. length of current shoot	.685	.699	.816*	.838**
Rate of current shoot below 50cm	-.451	-.505	-.524	-.525
51-100cm	.056	.149	-.042	-.112
above 101cm	.500	.449	.719*	.810*
Rate of lateral branch 1 year old	-.007	-.032	-.041	-.053
2 years	.254	.177	.196	.251
3 years	.015	-.086	.206	.290
4 years	-.138	-.020	.349	-.496
5 years	.257	.342	.146	.107
above 6 years	-.408	-.375	-.378	-.341
No. of lateral branches ^z	.366	.387	.526	.519
No. of reserved branches ^z	.539	.561	.618	.588
Length of reserved branch	.126	.041	.237	.330
No. of leaves ^z	.608	.602	.570	.476
Cropping fruit load ^z	-.305	-.253	-.546	-.633
No. of leaves per a fruit	.422	.398	.610	.629
Fruit weight	.781*	.833*	.613	.627
Specific gravity	-.557	-.436	-.488	-.457
Ground color	.454	.484	.542	.438
Flesh firmness	-.615	-.598	-.424	-.386
Ave. watercore index		.984***		.983***

Z: Number per a trellis area 1m²
n=8 *0.706 **0.834 ***0.924

IV. 考 察

1982年みつ症多発年に全国から実態調査が報告され、みつ症発生の大きな要因のひとつとして夏季の低温が明らかにされた(3, 10)。しかし、栽培要因との関係は、火山灰土壤で発生が多く沖積土壤で少ないと、樹勢が衰弱し、葉数が少ない樹で発生する傾向がみられるなどのほかは、明らかでなかった(5, 11)。さらに、埼玉県(7)の調査では土壤及び樹体の栄養条件等の影響は明らかでなかった。

折本・佐久間(6)は、土壤群別では黒ボク土にみつ症が多発し、灰色低地土では少ないと明らかにしている。大友(5)や埼玉県(8)においても同様な結果が得られている。しかし、その発生機構は明らかにされていない。

また、従来地下水位の高い排水不良地でみつ症発生

が多いとされてきたが(5), 埼玉県(7)では明らかでないとしている。筆者らの今回の調査では、長期間湛水状態にあった冲積土壤園ではみつ症の発生が少なく、同じ火山灰土壤園でも、土壤水分の多い黒ボク土園ではみつ症の発生が少ない傾向であった。これらのことから今後、土壤型と根の発育、土壤水分とみつ症発生の関係を検討する必要がある。

1988年はみつ症発生率が数字としてとらえられず、園主からの聞き取りでみつ症発生を多少に分け、判別分析及び数量化2類で解析した。その結果、1年生側枝が多い、101cm以上の長い新梢が多い園でみつ症発生が多い傾向であった。1990年でも同様に平均新梢長、101cm以上の新梢割合とみつ症発生に正の相関が得られた。

みつ症発生と樹勢要因との関係は、聞き取り調査では樹勢が衰弱した樹園で発生が多く、埼玉県(8), 大友

(5)と同じ結果であったが、実態調査では明らかな傾向は認められなかった。むしろ、前述のとおり新梢伸長が旺盛で葉数の多い園でみつ症発生が多い結果が得られた。これは、多比良ら(9)が側枝年齢を若く配置した樹でみつ症の発生が多いことを明らかにしているが、同じ結果であった。

着果量については着果过多にともなう樹勢衰弱との関係からみつ症が発生すると考えられ、1989年の調査結果では着果量と正の相関が得られた。埼玉県(8)でも、小玉で早熟傾向の園でみつ症発生が多いとしている。しかし、大友(5)の結果では明らかな傾向は認められなかった。また、1990年調査の結果では逆に着果数が少なく、葉果比が大きく、果実が大きくなるとみつ症発生が多くなる傾向であった。1989年と1990年で逆の結果が出たことについては調査園数の違いなどの問題も考えられるが、再現試験などで今後検討する。

以上の結果から、「豊水」のみつ症は土壌要因(6)の他に、さらに要因として考えられた側枝年齢、新梢長、着果数、葉枚数、果実の大きさなど樹勢要因との関係は、年次によって結果が異なり、明らかな傾向は得られなかった。しかし、従来の知見に反し、側枝が若い、新梢が長い、葉数が多い、果実が大きいなど樹勢が強くても、みつ症が発生することが明らかになった。

「豊水」のみつ症は樹勢を弱めても、また逆に強めすぎても影響を受けるものと考えられる。したがって、今後はみつ症発生を抑制する適切な樹相を解明しなければならない。

V. 摘 要

みつ症発生に及ぼす樹勢や土壌要因の影響について、現地実態調査から検討した。

1. みつ症発生に及ぼす要因は土壌条件が最も大きかった。
2. 長期間湛水状態にあった沖積土壌園や、土壌水分の多い黒ボク土で発生が少なかった。
3. 小玉で成熟の進んだ果実にみつ症発生が多く、着果量と正の相関が得られたが、逆に着果量が少なく大玉となった園でも発生が多かった。
4. 単位面積当たりの葉枚数が多いとみつ症が多い傾向がみられた。
5. 新梢長が長く、予備枝本数が多いとみつ症が多かった。

謝辞 本研究の実施にあたり、現地調査園の選定及び調査に農業総合センター下館地域農業改良普及センター、土浦地域農業改良普及センター関係各位のご協力を賜った。深く感謝申し上げる。また、農業総合センター施設課高野俊雄、野口昭治、武田光雄、池田恵(故人)各氏には、調査にあたり多くのご助力を頂いた。心より感謝申し上げる。

引 用 文 献

1. 茨城の園芸 .1993.P101.茨城県 .
2. Kajura,I, S.Yamaki, M.Omura and I.Shimura.1976. Watercore in Japanese pear (*Pyrus serotina* Rehder.var.'Culta'Rehder):1.Description of the disorder and its relation of fruit maturity. *Scientia Hortic.*4:261- 270.
3. 松浦永一郎・青木秋広.1981.ニホンナシ‘豊水’の成熟特性と収穫適期判定.第2報.1980年の不良天候下における成熟の特異性.栃木農試研報.27:107-112.
4. 農水省果樹試編 .1983.ナシ豊水のみつ症状果の発生防止に関する試験.昭和57年度落葉果樹に関する重要な研究問題検討会.第一分科会(栽培)資料.P111-146.
5. 大友忠三.1983.ナシ「豊水」の果肉障害.技術と普及.4:79- 83.
6. 折本善之・佐久間文雄.1993.ニホンナシ‘豊水’のみつ症発生園土壤の実態.茨城県農業総合センター園芸研究所研究報告.1:23- 43.
7. 埼玉県 .1989.地域重要新技術開発事業研究成果報告書.ニホンナシの生育予測法の策定と着果管理及び収穫適期判定法の確立(主査 埼玉県).
8. 埼玉県 .1992.地域重要新技術開発事業研究成果報告書.ナシ、カキ、ウメの成熟異常果防止実用化技術の確立(主査 茨城県).
9. 多比良和生・佐久間文雄・檜山博也.1993.ニホンナシ‘豊水’の側枝年齢の違いと収量、果実品質及びみつ症発生との関係.茨農総セ園研報.1:1- 9.
10. 千葉県 .1983.総合助成試験研究報告書.日本ナシ新品种の安定供給法の確立に関する試験.90- 101.
11. 山崎利彦.1983.豊水のみつ症状.果実日本 .38(2)34-35.